

# 鯉淵学園同窓会兵庫県支部だより（第2号）

## 但馬で「鯉淵ひょうごの集い」を開催

鯉淵学園同窓会兵庫県支部主催の「鯉淵ひょうごの集い」が平成25年6月15日、城崎温泉・あさぎり荘で開催され、支部会員17名が参加しました。

当日は支部総会が午後4時からあさぎり荘の会議室で開かれ、平成23年度～平成24年度活動報告と収支決算、平成25年度～平成26年度活動計画と収支予算が協議・了承されました。今回は役員改選があり、顧問に23期田中義治氏、会長に26期福井寛行氏、副会長に28期武久正篤氏、会計監事に23期森友敏則氏、事務局長に44期芦田靖司氏（留任）が選出されました。また総会終了後に高見康彦氏（44期）から「丹波いちじま・高見農場」というテーマで水稻・小豆・黒大豆・野菜（にんじん等）栽培やにんじんジュース販売の取り組みが報告され、次いで参加者全員で記念撮影をおこないました。

懇親会が午後6時からあさぎり荘の大広間で開かれ、奥田和夫氏（10期）による乾杯の音頭のあと、久しぶりに会った同窓生たちが5分程度の近況報告を行い、仕事・農業・趣味などの情報を交換したり、鯉淵の学生時代に過ごした寮生活などの懐かしい思い出を話し合うなど、和やかな雰囲気の中で閉じることができました。同窓生の皆さん、今回は多くの方に参加していただき、この集いを大いに盛り上げ交流を深めていきましょう。

なお、総会で可決された平成25年度～26年度活動計画、平成23年度～24年度収支決算書、平成25年度～26年度収支予算書は以下のとおりであります。



（総会終了後に記念撮影、はい！チーズ）

### 写真説明・（ ）内卒期

前列左より 高見（44）、田中義（23）、奥田（10）、近本（15）、高木（22）

後列左より 福井（26）、芦田（44）、豊田（24）、岡本多（31）、武久（28）、新田（31）、前田（28）、田中久（23）、岡本昭（31）、森友（23）、戸田（23）

### 【平成25年度～平成26年度活動計画】抜粋

平成25・26年度の支部活動は昨年度に引き続き、平成23年10月の支部総会で決定した「今後の同窓会支部運営のあり方」をもとに次の事項に取り組むことにしました。

1. 同窓会支部会報「兵庫県支部だより」は、25・26年度に各1～2回発行する。
2. 支部会費（会員1名につき年1,000円）の徴収は毎年度50名以上を目標に取り組む。
3. 支部会員名簿の更新調査は26年度に実施する。
4. 「鯉淵ひょうごの集い」は27年度上半期に開催する。開催地区は別途協議する。
5. 同窓会本部が主催する支部長会等には可能な限り参加し、検討した内容や情報は会報等を通じて会員に提供する。
6. 近畿府県の同窓会支部と連携をはかり、「近畿のつどい」の開催時期や内容等を協議する。
7. 役員打合会は年間3回開催し、支部活動の活性化等を協議する。

### 【平成23年度～平成24年度 収支決算書】抜粋

（収入の部） 単位：円

科目	決算額	備考
前期繰越金	58,456	22年度からの繰越金
会費	90,040	23・24年度会費
分担金	0	
雑収入	15	貯金利息
計	148,511	

（支出の部） 単位：円

科目	決算額	備考
同窓生集い費	0	
会報発行費	12,190	支部だより印刷代
名簿更新費	17,500	ハガキ代、コピー代
旅費	0	
事務費	30,969	郵送料、事務用品他
雑費	6,290	役員打合会経費
次期繰越金	81,562	25年度への繰越金
計	148,511	

### 【平成25年度～平成26年度 収支予算書】抜粋

（収入の部） 単位：円

科目	予算額	備考
前期繰越金	81,562	24年度からの繰越金
会費	100,000	25・26年度会費
分担金	300,000	集い・懇親会分担金
雑収入	40	貯金利息
計	481,602	

(支出の部)

単位：円

科目	予算額	備考
同窓生集い費	300,000	集い・懇親会経費
会報発行費	50,000	支部だより印刷・取材費
名簿更新費	12,000	ハガキ代、コピー代
旅費	20,000	本部参加旅費一部助成
事務費	30,000	郵送料、事務用品他
雑費	20,000	役員打合せ経費
予備費	49,602	
計	481,602	



(総会で活動計画を熱心に協議中の参加者の皆さん)

## 鯉淵学園の思い出

今回から鯉淵学園で過ごした学生時代の懐かしい思い出を特集することにしました。初回は10期の加藤 整氏をお願いをしたところ、兵庫県出身の初代学園長小出先生と第二代学園長鞍田先生のことを書いていただきました。

### 「小出・鞍田両学園長のこと」

鯉淵学園の初代の学園長、小出満二先生は養父市八鹿町伊佐のご出身で、明治39年に東京帝国大学農科大学を卒業、鹿児島高農校長、九大農学部教授、東京高農校長等を歴任され、戦後昭和21年に高等農事講習所(鯉淵学園)の創設と(10期加藤 整)もに学園長に就任されました。



当時小出先生は、農業教育の第一人者と目されていました。私は先生から「社会思想」の講義を受けましたが、イギリスの議会制度から始まって民主主義や郷里での牛(但馬牛)の飼育のことなどに及ぶ幅広いものでした。

小出先生は、「教育の本質は個人の完成にあり、確固たる信念によって動き、自己の責任を果し、能く社会を担い得る人物とならねばならぬ。それには一般教

養を重視し、基礎的要素を十分に備え、偏狭固陋を排して常識を養い、社会人として修養に努めねばならぬ」と言っておられます。学園の教育目標が、「ヒューマニティにもとづく広い視野にたった農村指導者の養成」におかれていたのも、こんな考え方が基礎になっていたのではないのでしょうか。さらに先生は、農業教育は文部省に任せておいていいものではないと考えておられました。これは鞍田先生も同様でした。

昭和30年5月に初代学園長の小出満二先生が亡くなられたあと、第二代目の学園長に就任された鞍田純先生は、佐用郡三日月町(現佐用町)広山のご出身です。昭和3年に東大農学部を卒業された後、一時消費組合運動に関わられたことがありましたが、健康を害して研究生生活に復帰、東大助教授から昭和14年に北京大学農学院教授、そして戦後昭和23年8月に高等農事講習所(鯉淵学園)教授教頭に就任されています。講義は「農政論」「日本農業論」「普及論」等を担当されていましたが、講義は明快かつ論理的であり、聞く者を引きつけて魅力的なものでした。小出先生、鞍田先生を尊敬しておられた宮島三男先生は、二人の先生について次のように述べておられます。

「両先生には、それぞれ独特の雰囲気があった。たとえば、小出先生は温容、鞍田先生は俊厳という感じである。このような違いは、ものの見方や考え方、したがって学問の進め方や学生への接し方にもあるように思われた。小出先生はある事を説明するのに、よく『墨絵の白鷺』という言葉が使われた。『それとなきところどころを染めてこそ墨絵の鷺はあらわれにけり』の古歌によるものである。論理的に言えば、消去法であり帰納的発想である。だから、農業、農民の実情を知るためには、当時の詩歌・小説を広くよく読めと奨められた。鞍田先生の言葉で印象深いのは『科学的』である。ある社会事象を『結果』と見れば、その『原因』があるはずであり、その両者を結ぶ法則があるはずである。原因が正確であり法則が普遍的であるためには、概念が確固としており、論述は演繹的でなければならない」と。

鞍田先生は、「世の中を変えていく基本は教育にあり、農業近代化も農民の主体性の確立があってこそなし得るものだ」と言っておられます。今日の鯉淵学園がこのような創立時の理念を忘れずに日々努力しているかどうか分かりませんが、お互い関心をもって見守りたいと思います。



## 頑張っています！同窓生

今回の「頑張っています同窓生」は、53期（農業経営科卒業）の中田 直氏と44期（普及専攻科卒業）の高見康彦氏を取材しました。

### 「将来、トマトを淡路島ブランドに」

4月16日、淡路市新村でトマト栽培に取り組まれている中田 直氏を訪問しました。近くには、香りの館・香りの湯で有名な「パルシェ」があります。中田氏のトマト栽培用ハウスを訪れて、まずはその広さに驚きました。ハウスが15棟あり、4品種のトマトを年間4作に分けて栽培されています。そして、栽培したトマトを地元のJA淡路日の出を通して、市場に年間1万箱出荷されています。また、JA淡路日の出のトマト部会にも入れ中心的存在として活躍されています。

トマト栽培に取り組んだ動機を聞くと、中田氏は実家がトマト栽培農家であったため、幼い頃からトマト栽培に興味があったそうです。地元の高校卒業後に農業の勉強をしたいと思い、鯉淵学園で農業経営を学び、卒業してすぐにお父さんと一緒にトマト栽培に取り組まれ、今では当地区のトマト栽培農家の中でも大規模な経営をされています。

淡路島の春トマトとして有名な品種「瑞健」の種子があと数年で終了するため、中田氏はその代替の品種を試作中であり、完成すれば将来の淡路島ブランドにしていきたいと強い意気込みで話されていました。なお、品種試作のことは、平成25年2月26日付けの神戸新聞淡路版に掲載されていました。

今後の抱負として中田氏は、「年間を通してトマト栽培をしているので、1年中消費者の皆さんに美味しいといってもらえるトマトづくりに励んでいきたい」「現在の栽培面積を安定させていきたい」「市場流通にはどうしても限界があるので、新しい販売経路を開拓し、消費者にこの美味しいトマトを知っていただき、食べていただきたい」と話されていました。

最後に中田氏は同期、同窓生の皆さんに「淡路市に來られた時には、私のトマトハウスをぜひ見てください」と話されていました。



（トマトハウス内で中田 直氏をパチリ）

## 「にんじんジュースの販路拡大を」



（トラクターの横で高見康彦氏をパチリ）

5月16日、有機農業の里で知られた丹波市市島町で「たかみ農場」を営んでいる高見康彦氏を訪問しました。近くには丹波の古刹 白毫寺があり、九尺藤や紅葉の穴場としても有名なところです。

高見氏の農業経営は、水稲が9haのうちJAS有機コシヒカリ4ha、特裁コシヒカリ4.4ha、酒米山田錦60a、そして小豆80a、黒大豆70a、JAS有機ニンジン30aのほか、作業受託として稲刈22ha、乾燥・調整28ha、田鋤き20ha、田植10ha、小豆刈4ha、水稲苗販売3,000枚という内容でその規模の大きさに驚きました。農業施設には乾燥施設、製品・機械倉庫、格納庫、コンテナ冷蔵庫、育苗ハウス3棟、堆肥舎などがあり、機械はトラクター7台、田植機1台、コンバイン2台、乾燥機6台などが整備されています。これらの作業には高見氏のほかお父さん、アルバイト2名、研修生1名が従事されています。

生産した作物の中でJAS有機コシヒカリ米とJAS有機にんじんを加工・瓶詰した「にんじんジュース」は、雑誌社（株）自遊人が運営する通信販売「オーガニックエクスプレス」を通じて、インターネット販売をしたり、直営ショップ、米屋自遊人などでも販売しています。特に「にんじんジュース」は、他の生産者と共同して、今年2月に収穫した無農薬・無化学肥料栽培のニンジン



（美味しいにんじんジュース）

を雑誌社（株）自遊人の工場で加工・瓶詰にして、丹波にんじん搾り「無添加すりおろしにんじんジュース」という商品名で4月から販売しています。また、JAS有機コシヒカリ米やJAS有機にんじんの栽培方法などが雑誌「自遊人」に紹介され、読者から反響を呼んでいるそうでもあります。

高見氏は、2008年に兵庫県農産物検査連絡協議会鑑定競技会で優勝され、さらに2010年の第12回米・食味分析鑑定コンクール有機栽培（JAS）部門で金賞

を受賞されるなどの賞歴もあります。

今後の抱負や課題を問うと「にんじんジュースの販路拡大と農業経営を法人化したい」と将来を見据えた答えが返ってきました。

最後に趣味を聞くと「土・日曜日は野球やソフトボールをやったり、少年野球チームのコーチをしたりと多忙であるが結構楽しんでやっている。そしてキャンピングカーで遠方まで出かけ、先進農家を視察したり、学園の同期生に会ったりしている」と話されていました。

## 支部会長退任の挨拶

23期 田中義治

去る6月15日に城崎温泉あさぎり荘で開催されました「鯉淵ひょうごの集い・支部総会」において会長を退任することになりました。振り返れば、会長を拝命してから約12年を経ましたが、その間、支部総会を各地区巡回して開き、同窓生の交流と親睦に努めたほか、近畿各府県同窓会支部の合同主催による「近畿のつどい」を17年、23年に神戸で盛大に開催することができました。また、本県同窓会会報（支部だより）の発行や会費徴収方法の変更、支部会員名簿の更新などに取り組み、一定の成果をみることができました。このことは、会員の皆様をはじめ、事務局のご支援・ご協力のおかげと心より感謝申しあげたいと思います。これからは、同窓会支部が益々活性化していくことを期待し、顧問として微力ながら支援してまいりたいと思っております。長い間、本当にありがとうございました。

## 新役員の紹介

平成25年度と26年度の新役員が支部総会で選出されました。新役員がそれぞれ自己紹介いたしますので、今後ともどうかよろしく願いいたします。

### ○ 会長 福井寛行（西脇市）

・卒業期・科

26期 農業協同組合科

・勤務先・職業

平成22年3月にJA兵庫中央会を定年退職し、現在は農業（野菜づくり）に挑戦して2年目。

・趣味

マラソン、旅行、読書

・近況

100坪の畑で四季折々の野菜を栽培し、道の駅野菜直売所に出荷。趣味のマラソンは11月に第3回神戸マラソンを走ります。町自治会の役員は3期目。市高齢者大学にも研究生として在籍中。

### ○ 副会長 武久正篤（神戸市）

・卒業期・科

28期 農業科

・勤務先・職業

平成25年3月に兵庫県を定年退職し、兵庫県農業会議に嘱託で勤務しています。

・趣味

海釣り（最近は船釣りが主体）

・近況

現在、週4日勤務で農業の担い手育成に関わる仕事をしています。

### ○ 会計監事 森友敏則（豊岡市）

・卒業期・科

23期 農業協同組合科

・勤務先・職業

58歳でJAたじまを定年退職し、自家の田畑の管理をしながら時々近くの直売所へ出荷。

・趣味

釣り、カラオケ、野菜づくり

・近況

現在、但東シルクロード観光協会理事（非常勤）をしており、チューリップ祭（4月下旬）観光ゆり園（6月中旬～7月上旬）の当番をしています。見に来てください。また但東町にはシルク温泉、たんたん温泉と二つの温泉があります。ともにお肌ツルツル、美人の湯です。温泉好きの方ぜひお越しください。宿泊施設「やまびこ」もあります。

### ○ 事務局長 芦田靖司（加古川市）

・卒業期・科

44期 普及専攻科

・勤務先・職業

JA兵庫中央会 農政広報部

・趣味

土日のウォーキング、ゴルフ、献血

・近況

中央会では農政活動として、農業予算に関する事項や農業に関する税制、JAグループの農業政策に関する意見をとりまとめ、県や国に対する政策提案や要請活動などを行なっています。

### 編集後記（平成25年7月）

第2号の支部だよりが出来上がりました。今回から学園の思い出を特集します。加藤氏は若い同窓生に初代学園長小出先生と第二代学園長鞍田先生が兵庫県出身であることを知ってもらいたいとの思いから執筆してくださいました。中田氏、高見氏を取材して農業に賭ける強い意気込みが感じられました。今後も先輩・後輩同窓生の元気な姿を焦点にあて取材を続けていきたいと思っています。本県同窓生の皆さん、支部だよりを充実するために、今後とも執筆・取材のご協力とご意見・ご感想をお寄せください。酷暑の折、どうかお体をご自愛ください。編集者：福井寛行（26期）

自宅：0795-22-1815 携帯：090-1022-2672

Eメール：hirokei-677@lime.ocn.ne.jp